

令和4年度第2回横浜市創造界限形成推進委員会会議録	
日 時	令和5年3月8日(水) 10時00分～12時15分
開催場所	市庁舎18階共用会議室みなと6・7
出席者	野原委員長、六川副委員長、遠藤委員、岡本委員、菅野委員、治田委員、日沼委員、 簗谷委員、山口委員
欠席者	なし
オブザーバー	恵良氏、加藤氏、山野氏、細淵氏、矢野氏、岡田氏
開催形態	一部非公開
議 題	1 審議事項 (1) 令和4年度事業進捗・仮評価及び令和5年度事業計画について (2) 旧第一銀行横浜支店の新たな活用に関する検討の進捗について 2 その他
決定事項	
	<p>事務局</p> <p>【開会】</p> <p>○令和4年度第2回横浜市創造界限形成推進委員会を開催する。</p> <p>【資料の確認】</p> <p>○配付資料の確認が行われた。</p> <p>【定足数の確認】</p> <p>○委員9名中9名が出席しており、委員会の成立となる。</p> <p>【会議の公開・非公開】</p> <p>○本会議は横浜市の保有する情報の公開に関する条例第31条により原則公開となるが、審議事項(2)については、同条例第7条第2項に基づき非公開とすることについて了承。</p> <p>審議事項(1)：令和4年度事業進捗・仮評価及び令和5年度事業計画について</p> <p>【各拠点ディレクターによる説明】</p> <p>細淵氏 ○BankART1929は、前代表が急逝した時点で既に今年度の事業計画は立てられていたため、それを基に新しい企画も交えつつ、様々なご協力を頂きながら運営を無事に継続することができた。コロナ禍の影響でカフェパブ事業、スクール事業など展開できていなかったものも、今年度は徐々にそれを再開することができた。Stationでは、キング軸を使ったアートテーブルなどの新しい企画で、周辺の企業や住民の方々とのネットワークづくりを具体的に始めることができた。また、広域展開を具体的にしていくには時間がかかるため、長期計画に切り替えて少しずつ進めていきたい。</p>

		<p>○BankART1929 は 2024 年で 20 周年を迎えることとなる。再構築を視野に入れて、トリエンナーレや大規模アートフェアなど周辺で開催される大きなイベントや他の創造界隈拠点、近隣の機関とも積極的に関わりながら展開していきたい。引き続き Station と KAIKO の 2 つの拠点を中心に、主催、コーディネート、スタジオ、カフェ、パブ、ショップコンテンツなど、基本的な事業を柱に、マイナーチェンジが必要な部分を少しずつ見直ししながら、継続展開していく</p>
加藤氏		<p>○急な坂スタジオは、利用が戻りつつあるが、これは昨年度、一昨年度に公演がかなわなかったものの延期公演やリベンジ公演が多かったので、来年度以降に関しては少し利用が落ち着いてしまう懸念がある。ヨルノヨの関連企画として野外のツアーパフォーマンスや、YPAM の時期に急な坂スタジオ全館を利用したショーケースを行った。ショーケースでは、スタジオの中の部屋を移動していただきながら、4 つの作品をご覧いただいた。今年度は世代交代をテーマにしており、ショーケースに関しては 30 歳以下のアーティスト限定で声がけした。これからもう一つ下の世代の育成にさらに力を入れていくということを表明する企画になった。</p> <p>○来年度の計画に関しては、ディレクター交代の準備を進め、再来年度に正式に交代する。また、1 年間かけて新しいサポートアーティストを公募し、決定のアナウンスをしたい。これに関しても、意識的に一世代、二世代若い人たちと一緒に作業していきたい。また、これまで 16 年間の事業のアーカイブも時間をかけて残していきたい。</p>
山野氏		<p>○黄金町では、分科会の評価で、事業数が多くて関連性がよく分からないという意見もあり、今年度は大きな事業は控えて日常的な活動に主に取り組んだ。特徴的だったのは、レジデンスのアーティストの数が数年ぶりに増加したこと。海外からの応募が非常に多く、約 50 人のレジデンスアーティストのうちの 10 人ぐらいが海外からで、順番待ちの状況。また、海外に黄金町のアーティストを派遣する事業も今年度から復活した。事業数が多いのではないかという評価があるが、地域の事業のサポートがかなりの部分を占めていることがずっと続いていた。それを、地域の方がより主体的に関わっていただけるような体制に組み替えていきたい。</p> <p>○今後の計画は、アーティストが増え続けている一方で、活動場所が増えていないということがあり、施設の改修を進めている。海外とのネットワークは、交流団体を増やし、リアルな交流を今後やっていきたい。また、アーティストと地域の皆さんが顔を合わせる機会が（コロナの影響で）3 年間ほとんどなかったが、そういう機会をもっと持たなければいけない。</p>
岡田氏		<p>○象の鼻テラスでは、ネクストノーマルを掲げながら、今までの事業をコロナ禍にうまく合わせて、それを乗り越え次に向かって歩むとい</p>

うことをテーマに取り組んだ。フューチャースケープでは、初めてヨルノヨと連携し、水際線を光の帯でつなぐということで参画した。天候がよかったこともあり、久しぶりに1日7,000人を超える動員が得られた。象の鼻テラスはアートやクリエイティブを楽しんでいただくだけではなく、市民・観光客、いろいろな方々に体験を通じて文化や横浜を知っていただくというミッションがあるので、ここにきてようやく回復の兆しが見られるなか、来年度どうしていくか検討している。

○来年度の事業計画は、テーマを「深化するクリエイティブ・シチズン多様な市民による主体的な表現活動の集積」として、非接触型の参加体験プログラムの拡充などを図りながら、いろいろな経験を提供できるようなプログラムを継続的に実施していきたい。海外との交流事業も新しい交流のスタイルを試行しながら実施していきたい。来年度については夏に大規模アートフェア、年度末には横浜トリエンナーレがあり、クリエイティブシティ・ヨコハマが20周年を迎えるので、他の創造界隈拠点との連携を深めながら、より横浜のクリエイティブな活動を、国内だけではなく世界にも改めて発信するような機会を設けつつ、旺盛に取り組んでいきたい。

矢野氏

○THE BAYS では、コロナ禍に入ってコワーキングスペースの需要がかなり増えていたが、出勤などが戻ってきて会員利用の需要は少し落ち始めている。その代わりとして、ビジネススクールの会員の方にスペースを使っただけなど、スペースの最大限の活用に向けて工夫ができたと思っている。また、Next Ballpark Meeting では、市民の方やベイスターズのファンの方と我々球団職員でオープンミーティングをして、「横浜スタジアムを会議室やリモートスペースとして使いたい」という意見をワーキングハマスタという名前で実施することができた。ワーキングハマスタを使った後にTHE BAYSに来ていただける割引システムなどをつくり、THE BAYSの認知度も上がった。分科会では、民間企業のノウハウで戦略的に事業を実施できていると評価いただいた一方で、単独の取組に見えるというご意見もいただいたので、来年度は全体の目標に対する位置づけをしっかりと意識して実施していきたい。

○来年の計画は、3つの目的の軸に沿って事業を実施していきたい。軸1つ目は「人材集約・育成のきっかけ作り」で、引き続きビジネススクールと子供向けのアカデミーを実施していきたい。軸2つ目は「横浜のまちに滲み出していく」ということで、試合日と非試合日における観光ツアーの充実を図っていきたい。軸3つ目は「横浜・ベイスターズとしての価値向上」として、ワーキングハマスタや、Next Ballpark Meetingを継続的に実施して、一般の方からの意見もしっかりと反映できるような取組をしていきたい。また、1階に入ってい

		<p>る+B、& 9の運営によって、都心部のにぎわい創出、エリア価値向上に努めたい。</p> <p>【各分科会の議長から説明】</p> <p>○BankART1929の分科会では、大きく3つのことに関心を持っていた。まず、代表交代に伴う組織運営。スタッフ体制の強化は、それぞれの専門性やネットワークを活用できるようにしているという話だった。より組織的な運営体制に転換することで安定感を増し、クリエイティブ性のアップも狙えるような柔軟な運営体制を確立しようとしている点を高く評価している。2つ目は経済的自立で、新たに Pop-up Store という販売事業にチャレンジし、新しいファンの開拓、収益性の向上の可能性を感じた。3つ目は、団体から、今後、コーディネート事業のニーズの減少、紙媒体の衰退による広報環境の変化があると話があり、SNSでの発信強化などの新たな取組など、時代の変化を察知し試行錯誤していることも高く評価している。最後に、評価軸に「事業の新機軸」という言葉があるが、それはBankARTらしさを磨いてほしいというエールのようなもので、BankARTらしさとは先端性を持っている活動というイメージである。アートの中でも、とりわけ現代アートは社会のありようと密接に関係していると思う。若い人たちをいつも惹きつけていくような刺激や魅力を持つていくことが必要なのだろう。時代を先取りするような感覚で、BankARTらしさを際立たせていっていただきたい。</p> <p>○急な坂スタジオでずっと課題としてきた広報について、「創造都市横浜」でのインタビュー掲載、朝日新聞の「感歎劇」への寄稿があった。急な坂の存在や活動とその意義を広く知ってもらい、創造都市の中で行われていることが広まるという意味でもとても有意義だったと高く評価している。急な坂は、今回新しいディレクターを育成することを表明した。新しいディレクターをどう育てていくのか、何を担ってもらうのか。現ディレクターのコピーではなく、新しい世代なりの方向性や取組をしてほしい。同時に、サポートアーティストの世代交代をすることも、画期的というか攻めた方針であり、分科会としては全面的に応援したい。来年度に関しては貸し方を少し変える、あるいは稽古は急な坂で行い、発表はSTスポットでやる等、横浜のいろいろな文化資源を使って展開していくことも考えている。稽古場を安全に運営していくことを、日々の工夫やアイデアを重ねて行っている一方で、新しいアーティストのサポートや、成果を着実に出しているということを、高く評価している。</p> <p>○黄金町では、アーティスト・イン・レジデンスが活発にリスタートしたことは非常に大きなことだったと思う。全体の運営では、近年はスタッフ体制が厳しい状況だったが、新規雇用もあり安定した運営ができるようになってきている。これから事業展開していくにあたって、業務</p>
叢谷委員		
山口委員		
日沼委員		

	<p>量のバランスや働き方など、次世代に向けてどんな運営をしていけるのかは大きな課題になると思っている。レジデンス拡充による収益と業務量の増加を、どうバランスをとって運営していくのかは、委員の方からも心配な課題であるという指摘があった。新たな企業との展開や鉄道会社との事業連携をこれからも発展させていけるのではないかと期待している。また、各事業は非常に成果があり、質の高いプロジェクトである一方、事業評価をする点において本来の基本方針とその事業の結びつきがなかなか見えない、どう評価していけばいいのかということが議論になった。これはもちろん黄金町だけの問題ではなく、これから20周年を迎える創造都市でどのように事業を整理していくのか、あるいは各組織との役割の差異化や事業目的の洗い出しは、もう一度、市とともに議論が必要であるという意見もあった。</p> <p>菅野委員 ○象の鼻テラスは、事業内容と運営体制を常に見直し、スタッフのキャパシティービルディングをどう生かしていくかということに機軸を置いて運営している。場合によっては専門性のある方にアウトソーシングする運営体制で、分科会としてはとても高い評価をしている。海の近くにある市民参加型の施設ということで、他の拠点とは違う強みを今後さらにどう高めていくのか。とてもいい立地であり、魅力的な施設なので、そこを使いたいという希望も出てきている。また、昨今、社会的インパクト評価という話が出てきていて、そういう視点が分かるような評価ができないかということが分科会の中で議論になった。数値で把握できるデータがあればそれがあつたほうがいい。ただし、定性評価と定量評価のバランスを勘案しないと数字だけがひとり歩きしてしまうので、その懸念は検討しなければならないということが議論された。全体としては高評価だが、評価のあり方を今後考えていく必要があるのではないかとというのが分科会として議論された。</p> <p>野原委員長 ○THE BAYS では、企業活動の中で事業を考えられているという意味では、持続的に活動していくにあたって企業の力もうまく生かしながらやっているところがある。様々なデータをお持ちで、データを分析して次を考えていくのは面白い取組だが、どの部分がこのプロジェクトの評価として見るべき指標・データなのかというのは、少し考えていかなければいけない。いろいろなプロジェクトをやっているが、単発的に見えており、プロジェクト全体を通すと、THE BAYS ならではのスポーツ&クリエイティブになっているのかを見せられるような形をつくっていくことが重要なのではないかと、委員も含めてその期待が寄せられた。やっている内容としてはすばらしい一方で、それが見えているかということとそうでもなかったりするなと感じたので、そういうところをうまく引き出しながら発信できると、さらに広がっていくのではないかと、そんな議論もあった。今回、評価指標の項目を変更したが、評価のあり方については引き続き考えていかなければいけな</p>
--	--

		<p>いかなと思っている。</p> <p>【質疑応答・意見交換】</p> <p>岡本委員 ○各拠点の役割なり評価について、全拠点に同じようなことを求めるのではなく、各拠点の強みや特徴に応じた役割を生かしていくべきだし、そこを評価していくべきだという点については、以前よりそれぞれの特徴がよく見えるようになってきているのではないかと感じた。また、いくつかの拠点から出ていた、定量評価も取り入れるべきではないかということは、基本的には賛成だが、それは全体的な評価のあり方の中での定量評価になると思うので、まずは横浜市のほうでよく検討していただいた上で、それをどのようによりよい活動のために生かすべきなのかを双方がよく理解した上で取り入れないと逆効果だと感じる。</p> <p>遠藤委員 ○長期視点での評価が実は必要なのではないか。各拠点でこれまでの振り返りの話があり、それぞれの拠点らしさのブランディングみたいなことと、どうやって変わっていった新しい方向性を出していくのかということと同時に考える難しさみたいなものがある。その上で、10年とか20年の蓄積に対する事業評価というか、創造都市としてこれをどう評価してきたのかを、実はあまり言語化していなかったのではないか。この10数年の事業の内容を創造都市としてどう評価するのかという話が本当は必要なのかなという気がした。それから黄金町でも広域というキーワードが出てきていて、BankARTのインディーズ2022、象の鼻の鶴見の話と、THE BAYSの街にしみ出す観光ツアーの話もあり、広域展開みたいなことが全ての拠点の中で視点として出てきていることを創造都市としてどうやってサポートしていくのか、どうやって全体を考えるのかというのは議論が必要だと思った。</p> <p>簗谷委員 ○これまでの積み重ねをどう評価するかということはすごく大事だと思うがなかなか難しい。例えばBankARTで言えば、先端性みたいなものをどうやって評価するのかとか、来場者は少ないけれどもすごくとがっていて、今アートの世界のプロの中では評価されるものを持っているとか、そういったものの意味をどう評価するかというのはすごく難しい。ChatGPTで「横浜のアートスポットは？」と日本語で聞いてみると、「横浜にはたくさんアートスポットがあります。下に書いてあるのは一例です」ということで、8つか9つか出ていた。横浜美術館や神奈川県立近代美術館、そういう中でBankART1929もあって、BankARTが横浜市を代表するアートスポットの一つとして少なくともChatGPTが認知していることが分かる。他は公的なものやスケールの大きい美術館が並ぶ中で、BankARTが出てきているのは、やはり積み重ねがあるからだ実感した。</p> <p>治田委員 ○THE BAYSはコロナ禍の中であっても事業として非常に頑張ってやっておられるので、それをどのように皆さんに共有したら理解いただけ</p>
--	--	--

るのかということ、改めてもう一度考えなければいけないなど今日思った。分科会で出てきていたのは、事業における目標が毎年ぶれてしまい、報告の仕方がその場その場のトピックスにどうしてもなってしまうので、この先あと8年あるのであれば、委員会と横浜市と、もちろん運営団体ともきちんと目標を設定すべきではないかという話があった。各拠点の事業を横並びにしたときに創造都市としてどういう価値を提供したいのか、ここはむしろ横浜市なり委員会が設定しないと、事業者さんにそれを任せるのは難しいと思っている。あわせて社会的インパクトみたいなものも、団体さんはそれぞれの事業を頑張ってくださいばよくて、インパクトを測るのはこちら側というか、だから、その指標がしっかりしていない限り、そこを事業者にお任せしてはちょっとかわいそうという感じがしている。

恵良氏

○各拠点の説明で、コロナ禍の中で新しいニーズを見つける、地域との協働を図るといった新しい目線でベクトルが上へ向いてきていることを踏まえると、様々なエリアや施設で活動するときに、主語が施設になって我々はこれをしますと言い方でなく、もっと述語的に捉えて、場所や街でこういうことが起きますと言う方が効果的な場合がある。その地域や街の魅力を伝えていくときに、あまり力んで主語的にやらない方が良い。主役はアーティストであったり、運営者であったり、街の住民であったり、そして来訪者であるという視点を持って取り組む時期かと感じている。

野原委員長

○事務局で受け止めて今後の課題にしていきたい。1つには、創造都市施策全体の中で拠点というものをどう位置づけて、どのバランスの中でそれぞれによりよい形でやっていただくのか、そろそろ改めて提示していく必要がある。横浜市としてどのような形で拠点全体を動かしていこうとしているのかという整理がまず必要。あわせて、評価のあり方自身ももう少し再整理していく必要がある。拠点同士の連動企画があつて、よかったところもあつたと思うので、拠点同士を考えながらどうしていくかというのも考えていけるといい。そのあたりも含めて、少しあり方を検討していきたい。

<審議事項（1）について了承。>

<拠点ディレクター退室>

審議事項（2）：旧第一銀行横浜支店の新たな活用に関する検討の進捗について

<事務局より説明が行われ、議題について審議が行われた。>

	<p>2 その他</p> <p><事務局から、情報提供が行われた。></p> <p><事務局から議事録の確認依頼や今後のスケジュール等について、事務連絡が行われた。></p>
<p>資 料</p>	<p>①次第</p> <p>② [資料1] 委員名簿</p> <p>③ [資料2] 前回議事録（令和4年8月10日開催分）</p> <p>④ [資料3] 令和4年度事業評価シート</p> <p>⑤ [資料4] 令和5年度事業評価シート</p> <p>⑥ [資料5] 旧第一銀行横浜支店の新たな活用に関する検討の進捗について</p>
<p>特記事項</p>	